

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025 年 11月 4日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科

職 名・学 年 診療助教

氏 名 笹井恒雄

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	2025 米国リウマチ学会議		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☒ 口 頭 ・ ☐ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	Clinical Significance of Anti-MDA5 Epitope Antibodies as Prognostic Indicators for Interstitial Lung Disease With or Without Dermatomyositis		
開 催 場 所	アメリカ合衆国・イリノイ州・シカゴ・McCormick Place		
渡 航 期 間	2025年 10月 24日 ～ 2025年 10月 29日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	162,490
		宿泊費	160,616
		滞在費	
		学会参加費	214,600
	その他		
以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 昨今の為替状況から、リウマチ学における世界最大規模の学会であるアメリカリウマチ学会への参加は難しいと考えておりましたが、貴財団からの助成により参加することができました。本当にありがとうございました。		

成果の概要 / 笹井恒雄

【学会の概要】

学会名：2025 年米国リウマチ学会議（ACR2025）

開催地：アメリカ合衆国 シカゴ

開催期間：2025 年 10 月 24 日～29 日

米国リウマチ学会（ACR）は、世界中から医師、研究者、医療従事者が参加し、リウマチ学に関する最新の研究成果を発表・共有する国際的学術集会である。本年も多数の参加者が集まり、リウマチ・膠原病領域における基礎研究から臨床研究まで幅広い分野の議論が行われた。本学会は、最先端の知見を直接学ぶとともに、日本の研究成果を国際的に発信できる貴重な機会である。

【発表の概要】

私は「Clinical Significance of Anti-MDA5 Epitope Antibodies as Prognostic Indicators for Interstitial Lung Disease With or Without Dermatomyositis」という演題で、幸運にもプレナリーセッションにおいて口頭発表の機会をいただいた。本研究では、抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎合併間質性肺炎において、MDA5 抗原中の特定のエピトープへの抗体反応性が、間質性肺炎の治療抵抗性と関連することを明らかにした。また抗 MDA5 抗体が陰性である特発性間質性肺炎の一部においても MDA5 エピトープに反応性を示す症例群が存在し、死亡率と関連することを明らかにした。MDA5 抗体のエピトープ特異性に基づく新たな層別化が、疾患の重症度や治療反応性をより正確に予測する可能性を示した。

【成果・得られた知見】

発表当日は、同分野の研究者を中心に多くの質疑応答が行われ、発表後も追加の議論や情報交換の機会を得た。これにより、本研究のデータと概念を国際的に広く周知することができ、大変有意義な発表機会であった。

【今後の展望】

今回の学会参加を通じて、エピトープ解析を基軸とした新しい免疫学的層別化の考え方を世界の研究者と共有することができた。今後は、得られた知見をもとに、より多様な人種・地域の患者データにも適用可能な普遍的モデルを構築し、国際的に還元できる研究へと発展させたい。